

我ら三兄弟!



三河川を代表する“川人間”に川自慢、ひと自慢、そして兄弟縁組に寄せる抱負を伺いました

坂東太郎 利根川



利根川流域交流会
会長 福成 孝三さん
ふくなり こうぞう



日本一の流域面積を誇る大河・利根川

利根川の流域は、一都五県に及び、あわせて1200万人の人々が生活をしています。流域が広く、課題も多様なため、全体としての連携は必ずしも十分とは言えませんが、数多くの人達がそれぞれの思いを持って、利根川を舞台にして活動しています。今回の兄弟縁組締結の後、10月13日に「全国川サミット」が取手市で開かれたのにあわせて、「小貝川フェスティバル&三河川縁組記念交流会」を行い、吉野川と筑後川からも参加して頂いて、今後とも交流を深めることを確認しました。また、20日には、水辺環境の再生とその利用が期待される印旛沼で、セミナーと交流会を行ったほか、同日の筑後川フェスティバルにも参加させて頂くなど、利根川でも、流域内外の交流が活発に行われようとしています。これを契機として、さらに二層、利根川の上流から下流までの数多くの団体の方々と交流を深めるとともに、吉野川、筑後川の方々と一緒に、活動の輪を広げてゆきたいと思っています。

筑紫次郎 筑後川



特定非営利活動法人
筑後川流域連携倶楽部
理事長 駄田井 正さん
だた い だし



←筑後川フェスティバル
毎年、流域の持ち回りで開催。
26回目となる今年は下流の佐賀
県佐賀市で実施。流域の人々が
集う場となっています。



→筑後川新聞
四県にまたがる流域の人々の情報
の共有と連携を目的に一九九九年
に創刊。年6回、2万5000部
発行しています。

飯泉嘉門徳島県知事、虫明功臣日本河川協会会長などの方々の肝いりで、7年間にわたる交際の期間を待つ、三河川の兄弟縁組が実現しました。関係者一同の喜びはひとしおです。この縁組を契機に三河川にかかわる情報や人々の交流がすすむことで、今までなかった出来事や試みが生まれることと期待できます。

三河川流域での観光や物産販売などに新しい刺激となることは無論のこと、教育・医療・福祉などにも河川を活用することでの新しい展開が期待できます。そして私が何よりも期待していることは、この縁組が日本再生につながることで、少子高齢化と過密過疎化が、持続可能な社会を築くための日本社会が抱える根本的な課題です。この課題を乗り越えるには、流域単位で対応していくことが、錯綜した障害の糸をほぐすもとであることとを、縁組からの成果が提示すると思えるからです。

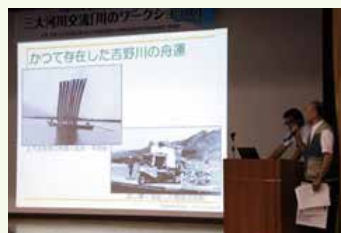
四国三郎 吉野川



吉野川交流推進会議正会員
吉野川渡し研究会
事務局長 日下 武久さん
くさか たけひさ

平成17年に愛知県で開催された「川の日ワークショップ」で、川を活用した流域間交流として三河川兄弟縁組を提唱して7年、ついに縁組が実現しました。なんだか嫁にやったような気分です(笑)。平成19年から縁結びカレンダーを作成し、縁組構想の広報に努めてきましたが、「川が兄弟縁組するなんておもしろいね」「構想が大きいからいろんなことができるね」と反応は上々。そんな声や大勢の人の輪、行政の強力なバックアップがあつて、ここまでこぎ着けられました。でも、ここからが本当のスタート! 河川の縁組というソフトインフラを生かし、その上を観光や文化、経済の車が走るよう発展させなければなりません。

三兄弟には将来はお嫁さんが必要です。淀君(淀川)などびったりじゃないでしょうか? かけがえない川資源のいつその資源化を図るために、三兄弟を核に、国内、ゆくゆくは海外の川との縁組も視野に入れ、夢を大きく描いて交流を進めていきたいですね。



川のワークショップで発表する日下さん。
川の語り部の養成という新構想を語ってくれました

2013年の縁結びカレンダーは「展望の風景」がテーマ